

童謡「赤とんぼ」の碑 除幕式



「赤とんぼ」の故郷は茅ヶ崎

作曲家の山田耕筈(1886~1965年)が茅ヶ崎市で童謡「赤とんぼ」を作曲したことを伝える記念碑が茅ヶ崎中央公園(同市茅ヶ崎)に完成し、20日、除幕式が行われた。式には服部信明市長や記念碑建立のために活動した市民ら約300人が参加。記念碑の前で「赤とんぼ」など山田耕筈の手がけた歌曲を合唱し、記念碑の完成を祝った。写真

記念碑はオルガン型で、高さ約2・3メートル、大正15(1926)年から約6年間、同市で暮らした山田耕筈が昭和2(1927)年に作曲した「赤とんぼ」の楽譜と自画像が金属製プレートに刻まれ、夕焼けやトンボを描いたタイルが張られたデザイン。

オーケストラ運営に失敗し、失意の中で移り住んだ山田耕筈の手記の一部が碑文に刻まれ、茅ヶ崎の美しい自然の中で、創作意欲を取り戻していた様子も紹介されている。

碑文を揮毫した茅ヶ崎市出身・在住で21世紀国際書会常務理事の書家、松永光鳳さん(60)も式に出席。「号を名乗って活動しているが、本名の『耕作』は地元で活躍した山田耕筈にちなんだもの。何とも言えず、うれしい」と感慨深げだった。

市民団体「童謡『赤とんぼ』の碑を建てる茅ヶ崎市民の会」が平成22年10月から今年2月まで募金活動を行い、建立資金を集めた。

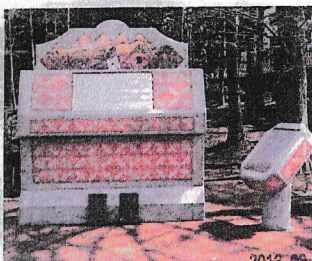
東日本大震災が発生し、昨年3月から10月までは被災地支援の義援金を募るため、建立資金の受け付けは休止していたが、最終的には目標を

山田耕筈の記念碑完成



超える約700万円が集まったという。同会の三橋博事務局長(69)は「市内のほか、横浜や横浜賀からも寄付をいただき、当初計画よりも大きく美しい碑にできた」と感謝していた。披露された碑を見て、募金活動に参加した茅ヶ崎市の稲垣嘉正さん(88)は「『赤とんぼ』がさらに親しまれていく、きっかけになってほしい」と期待を込めた。

茅ヶ崎 童謡「赤とんぼ」を後世へ  
ゆかりの作曲家・山田耕筈記念碑建立



オルガン型の記念碑には「赤とんぼ」の楽譜や里山をイメージしたイラストが盛り込まれている

作曲家・山田耕筈が茅ヶ崎に在住時に童謡「赤とんぼ」を作曲したことを後世に伝えようと、3月20日、茅ヶ崎中央公園で記念碑の除幕式が行われた。式には服部信明市長や市民らが参加し、記念碑の前で「赤とんぼ」などを合唱した。

記念碑建立には、茅ヶ崎商工会議所の田中賢三会頭を会長に、文化団体や市内有志、企業などによる市民団体「童謡『赤とんぼ』の碑を建てる茅ヶ崎市民の会」が、平成22年10月から今年2月まで募金活動を行い、資金を集めた。

同会に携わる「山田耕筈」と「赤とんぼ」を愛する会「代表の内山喜代子さんは、『結成し10年となる愛する会では、山田耕筈にまつわる足跡調査を行い、居住地跡の南湖に曲碑板を建て、コンサート活動なども行ってきました。今回の記念碑建立で、この地で生まれた音楽文化に興味を持ち、湘南の歌として受け継いでもらいたい」と話した。